

4. BTC研修修了者からのメッセージ

このコーナーは、BTCが行っている育成調教技術者養成事業の研修を終え、社会へ巣立っていった修了生が生産・育成界の現実を知りつつ、「強い馬づくり」への夢と期待を述べることを目的に開設しています。次世代を担う若者へ皆様から飛躍のためのエールをお願いいたします。

目標を持って

社台ファーム(山元トレーニングセンター)勤務 **井出 博之**

第15期生(平成12年3月修了)

私がBTCを卒業して早や5年半が過ぎようとしています。一年間行われた研修では、騎乗技術や馬学、その他にもJRA日高育成牧場の協力を得て実際の1歳馬を馴致から育成調教まで行わせてもらう等、色々な事を学びとても貴重な経験をさせてもらいました。また、技術・知識面だけでなく、仕事に取り組む姿勢や忍耐力等、精神面でも鍛えられた一年間だったと思います。

卒業後には3ヶ月間アイルランドでの研修を経て、牧場に就職しました。このアイルランド研修で感じた事、それは、アイルランドの競馬が非常にオープンだという事でした。これはアイルランドに限らず海外競馬全体に言える事ではないでしょうか。海外では騎手や厩務員は専門の学校に行かなくとも、誰でもなれるのが大半です。何故、海外はそういうシステムなのか。それは、海外の競馬がギャンブルではなくスポーツとして認知されているからだと思いました。日本では一般的に競馬がまだスポーツというよりギャンブルとしてとらえられているような気がします。そのため、公正な競馬を行うために、海外の競馬と比べ閉鎖的になっているのではないかと考えます。これが日本の競馬がオープンにならない理由の一つだと思います。閉鎖的で環境も安定していて良いのですが、もう少し競馬をオープン、自由競争にしていけば互いに切磋琢磨し合い、今よりもっと高いレベルで競馬が行われていくと思いました。

私はそのような思いを胸に牧場で働き始めましたが、先輩達の仕事に取り組む姿勢や技術のレベルは高く、自分は満足できる仕事をする事ができませんでした。

そんな私も月日が経つにつれ、変わってきた事があります。それは常に目標を持っ

て仕事に取り組めるようになった事です。毎日、一鞍一鞍異なった馬に乗ります。2歳馬から古馬までさまざまな状態の馬に乗る理由ですが、今何をしなければならぬのか、休養馬なら今度ここを退厩するまでの間どういう風に馬を仕上げていくのか、2歳馬ならデビューに向けてどう教え込んでいくか、またゲート難な馬を、次のゲート試験に合格させる為にはどう教育していこうか等、常に考えるようになりました。昔はこれらの事を意識しなければ出来ませんでした。今ではそれが当たり前のように考えられるようになってきていると思います。

今、BTC で研修を受けている後輩の人達も、毎日の騎乗訓練では常に何か一つ目標を立てて取り組んでほしいです。そういう姿勢で取り組めば、必ず技術も向上し一流の育成技術者になれると思います。



執筆者とムーヴオブサンデー号(平成16年 フィリーズレビューG 勝馬)